



Be fearless ~伝統と共に煌めく未来へ~

私たちは、生きるために、幸せになるために、日々学んでいる

野生動物は弱肉強食の世界で、命の危険に常にさらされており、日々生きながら日常生活の中で学んでいます。生きることが、即学びに繋がっているとも言えます。

しかし、人間は、学ぶことが生きること、さらには幸せに繋がってはいますが、距離があるような遠い感じがして実感として強く意識できない面があるかもしれません。

そのため、学びに対して必要感や切迫感が弱く、怠けたり、いい加減になったりとおろそかになりがちです。それが現実に分かるのが、社会人となり働き出してからです。否応なく様々な現実が突きつけられます。その時後悔してもどうしようもありません。

イソップ物語「アリとキリギリス」のアリのように、遠い将来を見据えて日々努力する、地道に学ぶ姿勢が大事です。ただキリギリスのように今、この時を楽しめることも意義があります。

皆さん一学期が始まり一月が過ぎました。授業中の態度、学ぶ姿勢はどうか。教科の学習を通して、課題に向き合う中で、物事の見方・捉え方や考え方、さらに自分なりにその時間の意義や価値を見いだして、自分磨きや高めることにしていますか。ただ与えられるものを、受け身的に捉えて、勉強させられているとなっていないですか。

主体的に学びましょう。学ぶ姿勢が前向きなら、学ぶ対象がどのように変わっても多くのことを吸収し、自己の成長に繋がり、幸せへと繋がっていきます。

クラスマッチ 全力は美しい！！

クラスマッチは若さの躍動、爆発で感動的でした。リレーにおける全力で走る姿、綱引きの力と力のぶつかり合い、激突はシンプルなものでしたが、見ていてストレートに大きく心を揺さぶられました。大変美しくもありました。持てる力を出し切る、駆け引きなしに無心ですべきことに取り組む姿は、直向きで、真摯で見ていて深く引き込まれました。若さは素晴らしいと改めて感じました。このエネルギーを他のことにも是非波及させてほしいと思います。

ゴールデンウィーク中には、個人や家族、仲間内で過ごす様子がニュース等で流れますが、5月1日に実施したクラスマッチほどのエキサイティングな盛り上がりで感動は得られないだろうと思いました。貴重な思い出の1ページになったことでしょう。クラスの仲間同士の絆や団結も一層強くなったことと思います。

体育委員会・中央幹事会が主体となって企画、運営をしたのですが、立派なものです。主催者になって催し物を進めると様々な苦勞があります。その苦勞が視野を広げ、今まで気づかなかった他人の苦勞が理解できたりして人間的な成長を促します。また、参加者が喜び、大きな盛り上がりを見せて、催しが盛会裡に終わると大きな達成感や充実感が湧き起こってきます。それは、何物にもかえがたい貴重な思い出、財産になります。

ピンチはチャンスだありがとう

人生には予期せぬことが往々にして起きます。その内容が好機よいことなら、勢いに乗って前進することができますが、危機よくないことなら逆に、落ち込んだり焦ったり、平常心ではいられなくなり、その場に膝を折りうずくまってしまうかもしれません。そんな時は、清水英雄氏の下の詩「ピンチはチャンスだありがとう」を口ずさんでみましょう。きっと、元気が出てきて、勇気が湧き起こってくることでしょう。

つらいことがおこると 感謝するんです
これでまた強くなれると ありがとう

悲しいことがおこると 感謝するんです
これで人の悲しみがよくわかると ありがとう

ピンチになると感謝するんです
これでもっと逞（たくま）しくなれると ありがとう

つらいことも悲しいこともピンチも乗り越えて 生きることが
人生だと言いきかせるのです 自分自身に

そうするとふっと楽になって楽しくなって 人生がとても光り輝いてくるんです

ピンチはチャンスだ

人生はドラマだ

人生がとてもすてきにすばらしく
よりいっそう光り輝きだすんです

ますます光り輝く人生を
ありがとう の心と共に

心を育み、脳を活性化する読書

今回紹介する本は、昨年 NHK-BS・NHK-BS プレミアム 4K で放送されたドラマの原作です。この度下のようにNHK 総合で再放送されるように大変おもしろいです。

ドラマ10 『舟を編む〜私、辞書つくります〜』

放送予定：2025年6月17日(火)スタート予定〈全10回〉

NHK 総合 毎週火曜 夜10:00〜10:45※再放送：毎週金曜 午前0:35〜1:20（木曜深夜）

余談ですが、1980年代のアニメ「めぞん一刻」高橋留美子作（微笑ましい恋愛物語です）を少し連想させます。そして、その主題歌ピカソの「シ・ネ・マ」はノスタルジックなメロディーと情緒的な歌詞が相まって、TVアニメの雰囲気によく合っていました。



『舟を編む』 三浦しをん 著 光文社文庫

「大渡海」と呼ばれる新しい辞書を編纂する様子を丁寧に描きながら、編纂にかかわる人間模様が瑞々しく描かれています。

朴訥な主人公の辞書編纂にける情熱が感動です。また、他の下宿人との彼の不器用な恋も微笑ましいです。

言葉の重みを実感します。